

海溝型分科会（第二期）における調査観測計画の見直しに関する意見  
（第30回海溝型分科会（H24.10.18））

●改訂に必要なデータとして意見のあったもの

1. 地形・地質のデータ

- ・海溝軸付近の地質構造・地形の調査

⇒海溝軸付近でのひずみの蓄積や過去の地震発生履歴を明らかにすることで、長期評価の信頼度の向上が期待できる

- ・津波堆積物の調査等の地震発生履歴調査

⇒同上に、地震発生履歴を明らかにすることで長期評価の信頼度の向上が期待できる。

2. 測地観測データ

- ・海底地殻変動観測

⇒地震活動の評価には、地殻変動のデータが必須であるが、現状の海底地殻変動観測では、観測密度（分解能）が十分ではない。海域での地殻変動が詳細に分かることにより長期評価に役立てられる（ただし、観測データが蓄積されるのに、一定程度の時間は必要）

- ・水準測量、ひずみ計・傾斜計など地中センサーに基づく地殻変動観測

⇒全国的にGNSSが整備されているが、空間的な分解能は不十分である。南海トラフ沿いなど、地震前の地殻変動の推移を高分解能で捉えられれば、長期評価に貢献できる。

3. 地震観測データ

- ・Hi-net、KiK-netの整備

⇒Hi-netは沖縄、小笠原、島嶼部、KiK-netは島嶼部で整備が進んでいないので、整備が必要。これらの地域では詳細な地震活動が把握されていないため、長期評価に必要な地震活動のデータ（南海トラフや相模トラフでは使用している）が、不足している。詳細な地震活動を観測することにより、地震活動の特徴が明らかになり、長期評価の信頼度向上が期待できる。

- ・海底ケーブルによる地震観測の充実

⇒海溝型地震（海底下で起こる）の観測には海底での地震観測が必須である。観測データが不足している地域での観測が長期評価の信頼度向上に役立つ。

※南西諸島海溝沿いや、伊豆・小笠原海溝沿いでは、全般的に調査・観測が不足している。上記各項目とも、これらの地域での整備が必要である。